

ナシ萎縮病とは

糸状菌がナシに感染し、葉に萎縮症状が発生する病気

学名：*Fomitiporia* sp.

和名：チャアナタケモドキ

【発生地域】

東北地方から九州地方に至る日本各地の産地で発生している。

【宿主植物】

ニホンナシ。他の広葉樹やスギ、コウヤマキなどの針葉樹にも発生する。

【発生生態及び被害】

- 1 春先の展葉が正常に進まず、葉が萎縮、波打ちあるいは小型化する。葉縁、特に先端部が黒変し枯死することが特徴である。
- 2 症状が軽いうちは、展葉が進むに従って、上位葉での発症は認められなくなり、夏季には外見上健全樹との区別は困難となる場合が多い。
- 3 新梢の発生は少なく、伸長も悪くなる。果実は小玉となる場合が多い。
- 4 発病樹の幹や太枝の材部には腐朽が認められ、症状が進むと枝や樹全体が枯死する



ナシ萎縮病による葉の萎縮症状



発病樹でみられる材部の腐朽

【防除方法】

現時点ではナシ萎縮病の有効な防除法はなく、耕種的対策による予防が主となる。感染源となる子実体（きのこ）を除去する。子実体は林木や庭木などにも発生するため、果樹園周辺の樹木にも注意する。感染を防ぐため、剪定跡など傷口を保護する。樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持・回復を図ることも重要である。